

# 楽2コイブラリ

クライアントサーバ

キャビネットアクセス権限  
一括設定ツール

使用手引書

**PFU**  
a Fujitsu company

Copyright PFU Limited 2018

---

# 目次

はじめに.....	2
1. 概要.....	3
2. 使い方 .....	5
2.1 権限一括設定.....	6
2.2 ユーザー名変更.....	9
2.3 クリーンアップ.....	10
2.4 権限情報のコピー .....	11
3. 実行結果 .....	12
4. メッセージ.....	14
5. 結果情報ファイルのエラー.....	16
6. 困ったときには.....	17
7. 参考情報 .....	18

---

# はじめに

本書は、「楽<sup>2</sup>ライブラリ クライアントサーバ キャビネットアクセス権限一括設定ツール」の使用方法について説明したものです。

2018年12月 初版

# 1. 概要

「楽<sup>2</sup>ライブラリ クライアントサーバ キャビネットアクセス権限一括設定ツール」（以降、「本ツール」）は、楽<sup>2</sup>ライブラリ クライアントサーバ V5.0L50以降でお使いいただける、キャビネットアクセス権限に関する操作を行うコマンドラインツールです。

【コマンド名】 RkSetCabinetAuth.exe

本ツールでは、以下の操作を行うことができます。

	操作内容	説明
1	<b>権限一括設定</b> 指定ユーザーのキャビネットアクセス権限を、全体/書庫単位/キャビネット単位に設定または解除することができます。	2.1章
2	<b>ユーザー名変更</b> ユーザーIDを変更したときに、変更前のユーザーのキャビネットアクセス権限情報を引き継ぐことができます。	2.2章
3	<b>クリーンアップ</b> 削除したユーザーのキャビネットアクセス権限情報を全体/書庫単位/キャビネット単位に一括削除できます。	2.3章
4	<b>権限情報コピー</b> 指定したキャビネットのアクセス権限情報を別のキャビネットにコピーします。	2.4章

## ■ インストール／アンインストール

本ツールはインストール不要です。（レジストリへの書き込みも行いません。）

本ツールを任意のフォルダに置いてお使いください。



- ・ ツールを配置したフォルダ上に実行結果ファイルを作成しますので、本ツールを書き込み可能なフォルダに配置してください。
- ・ 本ツールはシフトJISで動作します。配置するフォルダパスにはシフトJISで認識できない文字（Unicode文字など）を含まないでください。

## ■ 動作環境

本ツールの動作環境は、楽<sup>2</sup>ライブラリ クライアントサーバ V5.0のサーバ動作環境に従います。

## ■ 実行条件

本ツールの実行条件は以下の通りです。

- － 楽<sup>2</sup>ライブラリ クライアントサーバ V5.0L50以降(サーバ) がインストールされた環境でのみ動作します。
- － 本ツールは管理者権限のあるユーザーでのみ実行できます。

## ■ 実行時の注意事項

- － 本ツール実行中は、不用意なデータ操作を防ぐため、以下のサービスを停止することをおすすめします。
  - ・ IIS(Internet Information Services)サービス
  - ・ 楽<sup>2</sup>ライブラリ 連携ソフトウェアがインストールされている場合
    - ＞ Raku2 AutoImp Service
    - ＞ Raku2 AutoTool Service

※ サービスの停止方法は、Windows のヘルプ等を参照してください。
- － 本ツールを実行するサーバの画面をブラウザ画面で表示している場合は、すべて閉じてください。
- － 本ツールで設定できるのは、楽<sup>2</sup>ライブラリ クライアントサーバで指定したデータ格納先フォルダ配下にあるキャビネットです。

---

## 2. 使い方

本ツールの使い方を機能別に説明します。

1. 権限一括設定
2. ユーザー名変更
3. クリーンアップ
4. 権限情報のコピー



本ツールのコマンドラインの指定方法は、

```
> RkSetCabinetAuth.exe /h
```

で表示することができます。

---

---



- ・本ツールのコマンドラインは英大小文字を区別しません。
  - ・本ツールのコマンドラインで指定する各項目は引用符で囲む必要はありません。
- 
-

## 2.1 権限一括設定

ユーザー単位で、全キャビネット／指定した書庫内の全キャビネット／特定のキャビネットに対して、キャビネットアクセス権限を設定／解除することができます。

キャビネットアクセス権限が設定されたキャビネットに対してのみ、権限を再設定することもできます。

新規にユーザーを追加したときに権限を一括で設定したり、あるユーザーに対して特定範囲のキャビネットのみ権限設定を一括で変更したりするときに便利です。



- ・ 楽<sup>2</sup>ライブラリ クライアントサーバで登録されていないユーザーの権限設定はできません。
- ・ 楽<sup>2</sup>ライブラリ クライアントサーバで参照できないキャビネットには権限設定できません。

### 【書式】

全キャビネットに設定する

```
RkSetCabinetAuth.exe <モード> <権限> <ユーザーID>
```

指定した書庫内の全キャビネットに設定する

```
RkSetCabinetAuth.exe <モード> <権限> <ユーザーID> <書庫名>
```

特定のキャビネットに設定する

```
RkSetCabinetAuth.exe <モード> <権限> <ユーザーID> <書庫名>/<キャビネット名>
```

コマンドラインに指定する各項目は上記の順序で指定する必要があります。

項目	指定可能な値	説明
〈モード〉	/set	対象範囲のキャビネットのうち、キャビネットアクセス権限が設定されているキャビネットのみを設定対象にします。
	/setforce	対象範囲に含まれるすべてのキャビネットを設定対象にします。
〈権限〉	/r	閲覧権限を設定します。
	/rw	更新権限と閲覧権限の両方を設定します。 〈ユーザ名〉に「!readuser」（一般閲覧者）を指定した場合は指定できません。
	/none	設定されている権限を解除します。
〈ユーザID〉	ユーザID	権限を設定/解除するユーザーIDを指定します。 楽 <sup>2</sup> ライブラリ クライアントサーバに登録済みのユーザーを指定する必要があります。 「admin」（管理者）は指定できません。
	!readuser	一般閲覧者を指定します。 一般閲覧者に更新権限を設定することはできません。
〈書庫名〉	書庫名	指定した書庫に含まれるキャビネットを対象にします。 存在しない書庫名は指定できません。
〈書庫名〉/〈キャビネット名〉	書庫名 キャビネット名	特定のキャビネットのみ対象にします。 存在しないキャビネット名は指定できません。 〈書庫名〉と〈キャビネット名〉の間は / で区切ります。



- ・ /setforceと、/rwまたは/rを指定した場合、キャビネットアクセス権限が設定されていないキャビネットにアクセス権限が追加されます。その場合、指定したユーザーに対する権限に加えて、admin(管理者)に更新権限と閲覧権限が自動的に付加されます。
- ・ 指定した〈ユーザID〉の権限モードが上級閲覧モードの場合、〈権限〉に /rw を指定して権限を設定すると、キャビネットアクセス権限情報には更新権限と閲覧権限の両方が設定されます。  
(ただし実際に操作できるのは閲覧操作のみとなります。)

## ■ 使用例

- ・ユーザーID「user01」に、「書庫1」内のすべてのキャビネットに対して更新権限と閲覧権限を設定します。

```
> RkSetCabinetAuth.exe /setforce /rw user01 書庫1
```

- ・ユーザーID「user02」に、「書庫2」内の「キャビネット1」キャビネットに対して、閲覧権限を設定します。

```
> RkSetCabinetAuth.exe /set /r user02 書庫2/キャビネット1
```

- ・ユーザーID「user03」の全キャビネットのアクセス権限を解除します。

```
> RkSetCabinetAuth.exe /set /none user03
```

## 2.2 ユーザー名変更

すべてのキャビネットのアクセス権限情報に登録されたユーザー名(ユーザーID)を変更します。

楽<sup>2</sup>ライブラリ クライアントサーバに登録したユーザーIDを変更したときに、キャビネットアクセス権限情報を引き継ぐ場合に便利です。



必ず、楽<sup>2</sup>ライブラリ クライアントサーバでユーザーIDを変更してから、本ツールをお使いください。ユーザーIDを変更する前に本ツールを実行することはできません。

### 【書式】

```
RkSetCabinetAuth.exe /rename <変更前ユーザーID> <変更後ユーザーID>
```

コマンドラインに指定する各項目は上記の順序で指定する必要があります。

項目	説明
/rename	ユーザー名(ユーザーID)変更を指定しています。
<変更前ユーザーID>	変更前ユーザーIDを指定します。 「admin」(管理者)は指定できません。
<変更後ユーザーID>	変更後ユーザーIDを指定します。 変更後ユーザーIDは、楽 <sup>2</sup> ライブラリ クライアントサーバに登録済みのユーザーである必要があります。 <変更前ユーザーID>と同じユーザー名は指定できません。 「admin」(管理者)は指定できません。

## ■ 使用例

- ・ユーザーIDを「user01」から「user02」に変更します。

```
> RkSetCabinetAuth.exe /rename user01 user02
```

## 2.3 クリーンアップ

楽<sup>2</sup>ライブラリ クライアントサーバに登録されていないユーザーのキャビネットアクセス権限情報を削除します。

楽<sup>2</sup>ライブラリ クライアントサーバからユーザーを削除し、別の利用者が同名ユーザーを再登録した場合に、以前のキャビネットアクセス権限が有効になってしまうのを防ぐことができます。

この操作は、すべてのキャビネット／特定書庫内にあるすべてのキャビネット／特定キャビネットのいずれかを指定することができます。



楽<sup>2</sup>ライブラリ クライアントサーバで参照できないキャビネットはクリーンアップできません。

### 【書式】

すべてのキャビネットの権限情報をクリーンアップする

```
RkSetCabinetAuth.exe /cleanup
```

特定書庫内にあるすべてのキャビネットの権限情報をクリーンアップする

```
RkSetCabinetAuth.exe /cleanup <書庫名>
```

特定キャビネットの権限情報をクリーンアップする

```
RkSetCabinetAuth.exe /cleanup <書庫名>/<キャビネット名>
```

コマンドラインに指定する各項目は上記の順序で指定する必要があります。

項目	説明
/cleanup	クリーンアップを指定しています。
<書庫名>	クリーンアップを行う書庫名を指定します。 存在しない書庫名は指定できません。
<書庫名>/<キャビネット名>	クリーンアップを行うキャビネット名を指定します。 存在しないキャビネットは指定できません。 <書庫名>と<キャビネット名>の間は / で区切ります。

## ■ 使用例

- ・「書庫1」内のすべてのキャビネットをクリーンアップします。  
> RkSetCabinetAuth.exe /cleanup 書庫1

## 2.4 権限情報のコピー

指定したキャビネットのアクセス権限情報を、別のキャビネットにコピーします。

連携ソフトウェアで自動的に作成されたキャビネットに、元のキャビネットのアクセス権限情報を引き継ぐ場合や、新規にキャビネットを作成した後に、既存のキャビネットのアクセス権限を引き継ぎたい場合などに用います。

### 【書式】

```
RkSetCabinetAuth.exe /copyauth [/overwrite] <コピー元書  
庫名>/<コピー元キャビネット名> <コピー先書庫名>/<コピー先キャ  
ビネット名>
```

コマンドラインに指定する各項目は上記の順序で指定する必要があります。

項目	説明
/copyauth	権限情報のコピーを指定しています。
/overwrite	この値を指定した場合、コピー先キャビネットにアクセス権限が設定されている場合に、コピー元のアクセス権限情報を上書きします。
<コピー元書庫名>/<コピー元キャビネット名>	コピー元の書庫名とキャビネット名を / で区切って指定します。存在しないキャビネットは指定できません。
<コピー先書庫名>/<コピー先キャビネット名>	コピー先の書庫名とキャビネット名を / で区切って指定します。存在しないキャビネットは指定できません。



- ・ /overwriteを指定した場合、コピー先に設定されていたキャビネットアクセス権限情報は上書きされますので、十分注意してください。
- ・ コピー元キャビネットに権限情報がない場合、/overwriteを指定すると、コピー先キャビネットの権限情報は削除(初期化)されます。

## ■ 使用例

- ・ 「工場」書庫の「製造」キャビネットのアクセス権限情報を、「工場@2」書庫の「製造@3」キャビネットにコピーします。

> RkSetCabinetAuth.exe /copyauth 工場/製造 工場@2/製造@3

### 3. 実行結果

本ツールの実行結果は、本ツールと同じフォルダ上に「result<日時>.txt」ファイルに出力します。



- ・ファイル名の<日時>には、本ツールの実行開始日時が「yyyymmddHHMMSS」形式(数字14桁)で入ります。
- ・実行結果ファイルは自動的に削除されません。不要な実行結果ファイルは適宜削除してください。

【出力例】 ※先頭に行番号は説明用に便宜上付けたもので実際には出力されません。

```

1: rksetcabinetauth.exe /setforce /rw PFU担当 共通資料
2: データ格納先, C:¥Program Files (x86)¥PFU¥Raku2ENT¥DocumentRoot
3: 実行開始, 2018/10/10 17:11:27
4: =====
5: ADD, OK, W, admin, 共通資料/商談関連,
6: ADD, OK, R, admin, 共通資料/商談関連,
7: ADD, OK, W, PFU担当, 共通資料/商談関連,
8: ADD, OK, R, PFU担当, 共通資料/商談関連,
9: ADD, OK, W, PFU担当, 共通資料/手続,
10: ADD, OK, R, PFU担当, 共通資料/手続,
11: ADD, OK, W, PFU担当, 共通資料/支払,
12: ADD, OK, R, PFU担当, 共通資料/支払,
13: =====
14: 実行完了, 2018/10/10 17:11:27
15: 設定対象キャビネット数, 3
16: 設定成功キャビネット数, 3
17: エラーキャビネット数, 0
  
```

	項目	説明
1行目	コマンドライン	実行したコマンドライン
2行目	データ格納先	データ格納先パス
3行目	実行開始	本ツールの実行開始日時 (yyyy/mm/dd HH:MM:SS)
5-12行目	権限設定結果	権限設定結果
14行目	実行完了	本ツールの実行完了日時 (yyyy/mm/dd HH:MM:SS)
15行目	設定対象キャビネット数	権限設定の変更対象キャビネット数
16行目	設定成功キャビネット数	うち、設定に成功したキャビネット数
最終行	エラーキャビネット数	うち、設定に失敗したキャビネット数



最終行の「エラーキャビネット数」が0でない場合は、権限設定に失敗したキャビネットがあります。その場合は、実行結果ファイルを参照してエラー原因を解消した後で、「エラーキャビネット数」が0になるまで本ツールを同じコマンドラインで再度実行してください。

権限設定結果は、カンマ(,)で区切られた6つの項目から成り立っています。各項目について説明します。



- ・設定内容や実行状況によっては値が設定されない項目があります。
- ・権限設定結果は設定を変更した1キャビネット/1権限/1ユーザーごとに出力されます。そのため、出力される行数と設定対象キャビネット数とは一致しません。

	項目	説明
1	実行内容	ADD：権限追加 DEL：権限削除 CHG：ユーザー名変更 CLR：クリーンアップ CPY：権限情報コピー RST：権限情報初期化
2	結果	OK：成功 NG：失敗
3	権限	W：更新権限 R：閲覧権限
4	ユーザーID	楽 <sup>2</sup> ライブラリに登録されているユーザーID 実行内容が「CHG」の場合は、変更後のユーザーIDが出力されます。
5	書庫名/キャビネット名	権限を設定変更したキャビネットを「<書庫名>/<キャビネット名>」形式で出力します。 実行内容が「CPY」の場合は、コピー先の「<書庫名>/<キャビネット名>」が出力されます。
6	エラー内容	エラー発生時、エラー内容を出力します。

## 4. メッセージ

本ツールをコマンドプロンプトで実行すると、メッセージが表示されます。表示されるメッセージについて、以下に説明します。

	メッセージ	説明
1	権限情報の更新が完了しました。 実行結果は本ツールと同じフォルダにある〈結果ファイル名〉ファイルを参照してください。	すべての権限設定が正常に行われました。 ツールの実行結果は画面に表示されたファイルに出力されるので、このファイルを参照してください。
2	権限情報の更新対象がありませんでした。 実行結果は本ツールと同じフォルダにある〈結果ファイル名〉ファイルを参照してください。	権限設定対象のキャビネットがありません。 ツールの実行結果は画面に表示されたファイルに出力されるので、このファイルを参照してください。
3	権限情報の更新に失敗したキャビネットがあります。 実行結果は本ツールと同じフォルダにある〈結果ファイル名〉ファイルを参照してください。	権限設定に失敗したキャビネットがあります。 ツールの実行結果は画面に表示されたファイルに出力されるので、このファイルを参照し、エラー内容を確認してください。
4	一部の書庫／キャビネットの権限情報を更新できませんでした。 実行結果は本ツールと同じフォルダにある〈結果ファイル名〉ファイルを参照してください。	書庫またはキャビネット情報が取得できなかったため、権限が設定できなかったキャビネットがあります。ツールの実行結果は画面に表示されたファイルに出力されるので、このファイルを参照し、エラー内容を確認してください。

以下のメッセージはエラーメッセージです。

これらのメッセージが表示された場合は、エラー原因を取り除いた後で再度本ツールを実行してください。

	メッセージ	説明
1	エラー:本ツールは同時に2つ以上実行できません。	本ツールは一度に1つのみ実行できます。
2	エラー:管理者権限で実行してください。	本ツールを一般ユーザーで実行しています。 管理者権限で実行してください。
3	エラー:楽2ライブラリ クライアントサーバがインストールされていません。	本ツールを実行する環境には楽 <sup>2</sup> ライブラリ クライアントサーバ(サーバ)がインストールされている必要があります。
4	エラー:楽2ライブラリ クライアントサーバのバージョンレベルが動作対象外です。	本ツールを実行する環境には楽 <sup>2</sup> ライブラリ クライアントサーバ(サーバ) V5.0L50 以降がインストールされている必要があります。

	メッセージ	説明
5	エラー: 楽2ライブラリ クライアントサーバのデータ格納先フォルダが見つかりません。	楽 <sup>2</sup> ライブラリ クライアントサーバのデータ格納先が見つかりません。 楽2ライブラリ クライアントサーバがインストールされていない場合はインストールしてください。
6	エラー: 楽2ライブラリ クライアントサーバのユーザー登録情報がみつかりません。	楽 <sup>2</sup> ライブラリ クライアントサーバのデータ格納先フォルダにユーザー情報ファイルが見つかりません。
7	エラー: 引数を指定してください。	本ツールには引数の指定が必要です。
8	エラー: 引数の数が範囲外です。(指定した引数の数)	本ツールは、コマンドラインの 1 つめに指定した値ごとに、コマンドライン引数の数が決まっています。
9	エラー: 引数に誤りがあります。(エラーがある引数)	コマンドラインの指定に誤りがあります。指定内容を確認してください。
10	エラー: 指定した書庫が存在しません。(書庫名)	コマンドラインに指定した書庫が見つかりません。指定した値を確認してください。
11	エラー: 指定したキャビネットが存在しません。(キャビネット名)	コマンドラインに指定したキャビネットが見つかりません。指定した内容を確認してください。
12	エラー: 指定したユーザーが存在しません。(ユーザーID)	コマンドラインに指定したユーザーが登録されていません。楽 <sup>2</sup> ライブラリ クライアントサーバに登録されたユーザーを指定してください。
13	エラー: 変更後ユーザーが存在しません。(ユーザーID)	ユーザー変更時、変更後のユーザーが登録されていません。楽 <sup>2</sup> ライブラリ クライアントサーバに登録されたユーザーを指定してください。
14	エラー: ユーザー名に“admin”は指定できません。	ユーザーIDに「admin」を指定しています。admin を指定することはできません。
15	エラー: ユーザー名に使用できない文字が含まれています。(ユーザーID)	ユーザーIDに以下の文字が含まれています。 ¥/:;&?"<> .*、空白(全角/半角) これらの文字はユーザーIDに使用できません。
16	エラー: 変更前ユーザーと変更後ユーザーに同じ名前を指定することはできません。(変更前ユーザーID、変更後ユーザーID)	ユーザー変更時、変更前と変更後に同じユーザーIDを指定することはできません。
17	コピー元キャビネットとコピー先キャビネットに同じ場所を指定することはできません。(書庫名)/<キャビネット名>	権限情報コピー時、コピー元とコピー先に同じキャビネットは指定できません。
18	コピー先キャビネットにアクセス権限情報が設定されているため、実行できません。(書庫名)/<キャビネット名>	コピー先キャビネットに権限情報が設定されているため実行できません。権限情報を上書きする場合は、/overwrite を指定してください。
19	エラー: 一般閲覧者に更新権限は設定できません。	一般閲覧者に更新権限を設定しようとしています。一般閲覧者に更新権限は設定できません。
20	エラー: 実行結果ファイルを作成できません。(実行結果ファイルフルパス)	実行結果ファイルを作成できません。 本ツールを配置したフォルダ名にシフト JIS で認識できない文字(Unicode 文字など)が含まれていないかを確認してください。 本ツールを配置したフォルダの書き込み権限を確認して再度実行してください。
21	エラー: その他のエラーが発生しました。	その他の異常が発生しました。

## 5. 結果情報ファイルのエラー

結果ファイルに出力されるエラー内容について、以下に説明します。



エラー情報が出力されている場合は、以下の操作が行われていないことを確認し、しばらく待ってから再度本ツールを実行してください。

- ・ ブラウザ画面での書庫管理、キャビネット管理操作
- ・ バインダの作成／削除／移動
- ・ ブラウザ画面でのユーザー管理操作
- ・ ブラウザ画面での権限設定操作

	エラー内容	説明
1	書庫一覧の取得に失敗	書庫一覧が取得できませんでした。
2	書庫内のキャビネット一覧取得に失敗	キャビネット一覧が取得できませんでした。
3	キャビネット内の権限情報取得に失敗	キャビネットの権限情報が読み取れませんでした。
4	ファイルコピーに失敗(Folder.ini)	権限情報の更新時に異常が発生しました。
5	ユーザー追加に失敗(更新)	指定したユーザーに更新権限を追加できませんでした。
6	ユーザー追加に失敗(閲覧)	指定したユーザーに閲覧権限を追加できませんでした。
7	ユーザー削除に失敗(更新)	指定したユーザーの更新権限を削除できませんでした。
8	ユーザー削除に失敗(閲覧)	指定したユーザーの閲覧権限を削除できませんでした。
9	ユーザー名変更に失敗(更新)	更新権限のユーザー名を変更できませんでした。
10	ユーザー名変更に失敗(閲覧)	閲覧権限のユーザー名を変更できませんでした。
11	権限情報の更新に失敗	権限情報の設定に失敗しました。
12	権限情報のクリーンアップに失敗	権限情報のクリーンアップに失敗しました。
13	ファイルオープンに失敗 (Folder.ini.new)	権限情報を出力するファイルを開くことができませんでした。
14	権限情報の更新に失敗 (Folder.ini.new)	権限情報を出力するファイルに書き込むことができませんでした。
15	権限情報の保存に失敗	権限情報を保存時に異常が発生しました。
16	原因不明のエラー	その他の異常が発生しました。

---

## 6. 困ったときには

本章では、本ツール利用時のQ & Aについて説明します。

### 《現象》

間違ったユーザー名を指定して本ツールを実行しました。

間違った書庫/キャビネットを指定して本ツールを実行しました。

- ⇒ 誤って本ツールを実行したときの実行結果ファイルをテキストエディタで開いて、予期しない設定が行われたキャビネットを確認します。  
誤った設定が行われたキャビネットについて、キャビネットアクセス権限を元の状態に戻してから、再度正しい引数で本ツールを実行してください。

### 《現象》

楽<sup>2</sup>ライブラリ 連携ソフトウェアで自動的に作成されたキャビネットに、キャビネットアクセス権限が引き継がれません。

- ⇒ 楽<sup>2</sup>ライブラリ 連携ソフトウェアで自動的に作成されたキャビネットには、元のキャビネットのキャビネットアクセス権限は引き継がれません。本ツールの権限情報のコピー(/copyauth)を使って、元のキャビネットアクセス権限をコピーしてください。

### 《現象》

書庫名やキャビネット名を指定して本ツールを実行したときに、書庫やキャビネットが存在しているにもかかわらず、「エラー：指定した書庫が見つかりません。」「エラー：指定したキャビネットが見つかりません。」と表示されず。

- ⇒ 指定した書庫またはキャビネットの一覧が取得できない場合に、これらのエラーメッセージが表示されることがあります。しばらく待ってから再度本ツールを実行してください。

---

## 7. 参考情報

本章では、本ツール利用時の参考情報を記載しています。

### ■ 実行時間の目安

本ツールの実行時間の目安を以下に示します。

#### [環境]

サーバ : CPU/Intel Core i5-2540 (2.66GHz)、メモリ/8GB

OS : Windows Server® 2016 Standard

#### [実行時間の目安]

対象キャビネット数 : 800 (10書庫×80キャビネット)、登録ユーザー数 : 10 の場合

	設定内容	処理時間
1	全キャビネットに権限未設定の状態から、管理者と10ユーザー全員に対して全キャビネットに更新権限を設定する ※バッチファイルで10回本ツールを連続して実行	4 6 秒
2	1ユーザーを削除し、全キャビネットのクリーンアップを実行する	6 秒
3	1ユーザーを変名し、全キャビネットのユーザー名を変更する	6 秒



ここに記載している実行時間は目安です。他のアプリケーションの実行状態等によって大きく変動する場合があります。

---

楽<sup>2</sup>ライブラリ クライアントサーバ  
キャビネットアクセス権限一括設定ツール  
使用手引書

第1版

発行日 2018 年 12 月

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。
- 本書に記載されたデータの使用に起因する第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責任を負いません。
- 無断転載を禁じます。